

木酢液について！

【インターネットの掲載について】

木酢液の効能として「アトピー性皮膚炎」や「体を温める」等の効果を記載したいのですが、「効果、効能」若しくは「それらを疑わせるような表現」が「薬事法」や「農薬取締法」により厳しく規制されています。よって、余り詳しく表現出来ないのが現状であります。

以下は、販売者が体験したり、他者から聞いたりしたことをご紹介するものであります。

【皮膚炎等に使用される場合】

水虫等には地元でよく使われます。綿棒等を使って原液を塗布します。但し、ご使用の際は直接商品であるペットボトルに差し入れたりせず、別容器に移し替えて使用して下さい。その木酢液は毎回捨てて下さい。水虫等の菌が木酢液に移るからです。そうすると次第ににごってきます。ネットでも事例を写真でご紹介しています。

皮膚炎（あせも等）で直接塗る場合は、目立たない患部から試して下さい。場合によって薄めることも考えて試して下さい。

紀州備長炭の木酢液を使った事例として、近隣の高校生の方でどうしても薬では“アトピーが治らない”との悲痛な声があり、一日1回朝晩原液を塗ることをお勧めしたところ、3ヶ月後にはきれいに完治し、お礼に来られたと言う実例もあります。

お風呂で体を温めるのに使用する分量は、一般家庭のお風呂に対しコップ一杯（250cc）程度の原液とされています。この入浴によって、かゆみが治る方も多いです。

【アトピー等の場合】

アトピー等は、根本原因であろうと思われる因子を取り除かない限り、何時までも症状が続くでしょう。

よって、当社では、羽毛布団（動物等の毛はアレルギーを起しやすいです）のご使用を止めるようにお伝えしています。その他、綿布団でも4年以上のご使用はお勧めしていません。

綿布団は一般的に多く使われている組成ですが、4年を過ぎると綿の油分が取れてホコリ（遊び毛）になり、吸い込むことでアレルギーの原因になると判断しています。木酢液は一時的な症状を抑えることでご利用できますが、根本原因を解決するものではありませんのでご承知起き下さいませ。

その他、たんすの裏、照明器具等にあるホコリを取り除くことも非常に大事でしょう。(体験より)

【農業に利用】

これこそ、色んな希釈条件がありますので、手探り状態での使用となるでしょう。当社ページでお勧めする図書をご紹介しますので、図書館等で調べて下さいませ。

【木酢液をお風呂に！】

お風呂に使用する木酢液は、家庭用のお風呂(160L)でコップ一杯(250cc)です。この量だとお湯に色は付きませんが十分です。肌のかゆみ除去や、身体の保温を目的に使用します。

また、炭と併用される場合は、備長炭を取り出してから木酢液を入れて下さい。入浴剤と木酢液との併用につきましては、実証結果はありませんが、臭いが阻害されることは察しが付きます。

[家庭用風呂の木酢液必要量]

風呂の湯、160L(7割水深) 250ml(250cc)

1Lで4回分の入浴に利用できます。

参考

木酢液は、薬品ではなく自然の植物液ですから安心です。アロエ(いしゃいらず)という植物をご存知でしょうか？これも薬ではないが、色んな症状に古くから重宝されている植物です。同じとお考え下さいませ。